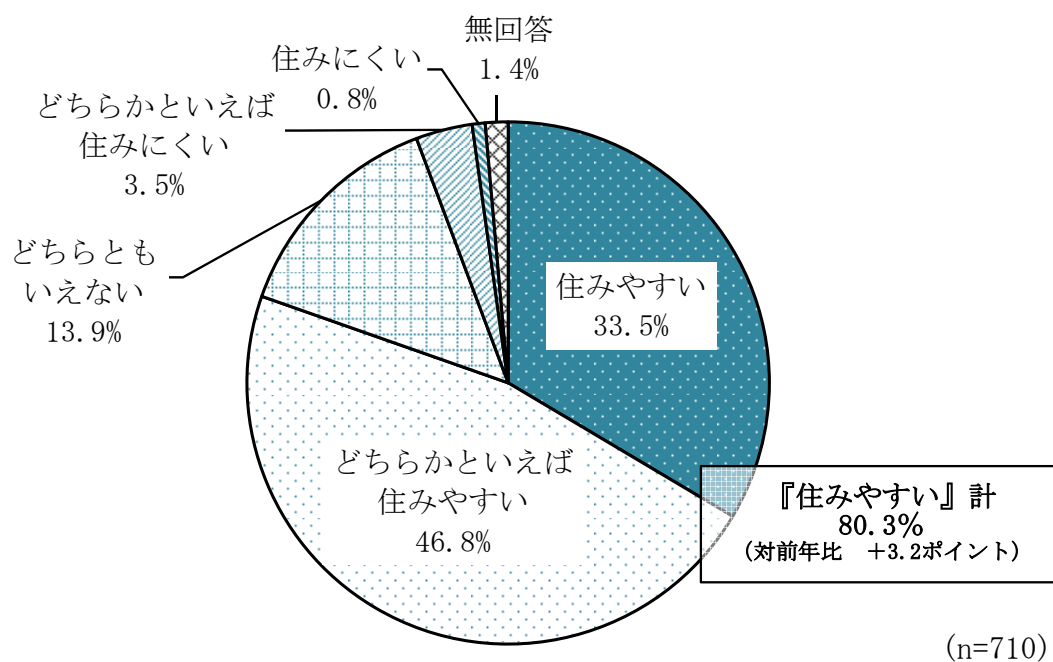


1. 郡山市の住みやすさなどについて

(1) 住みやすさへの評価

問 まちの住み心地や郡山市への愛着等について、どのように感じていますか。
あなたにとって、郡山市は住みやすいまちですか？（○は1つだけ）



8割の市民は郡山市を住みやすいまちと認識

【全体結果】

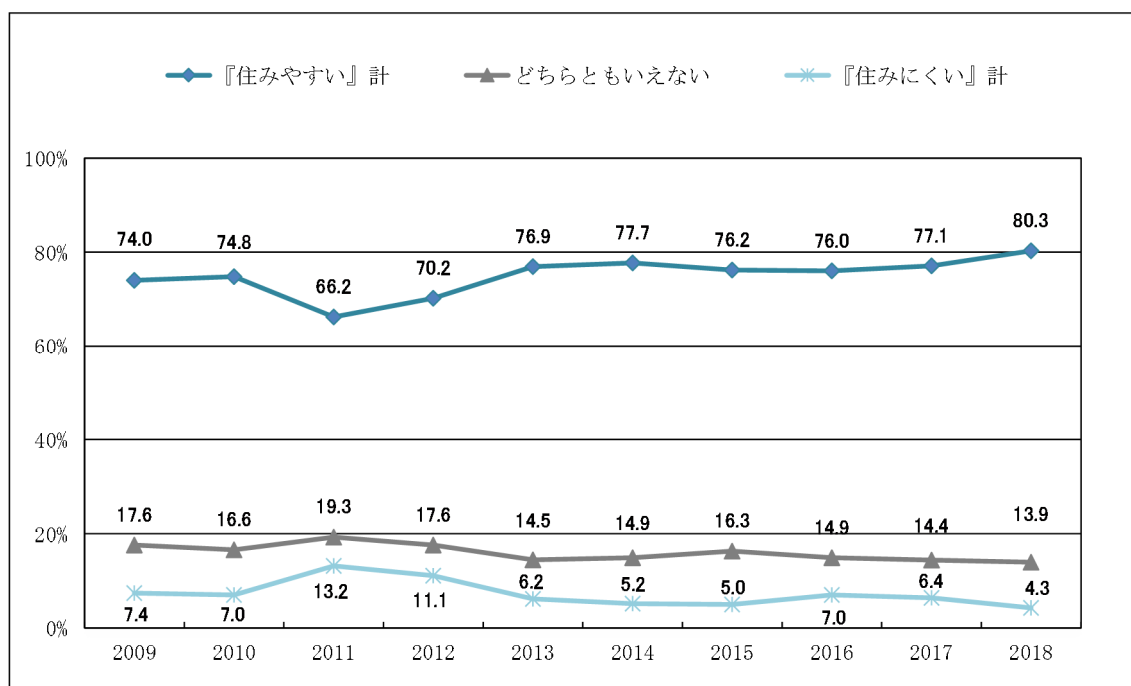
郡山市が住みやすいまちであるかどうかについては「住みやすい」（33.5%）、「どちらかといえば住みやすい」（46.8%）で両者を合計した『住みやすい』計（80.3%）が約8割を占めています。

一方、「どちらかといえば住みにくい」（3.5%）と「住みにくい」（0.8%）を合計した『住みにくい』計は5%程度（4.3%）となっています。

前年度調査に比べて、『住みやすい』計のポイントは3.2ポイント上昇しています。また、過去の調査結果との比較では、東日本大震災直後『住みやすい』計は低下したものの、その後復興が進み2013年からは震災前を上回り、今回初めて8割を超えました。

（図1-1 参照）

図 1-1 住みやすさの評価（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-2 参照）

①性別

『住みやすい』計の割合は、女性（81.4%）の方が男性（78.7%）よりもやや高くなっています。

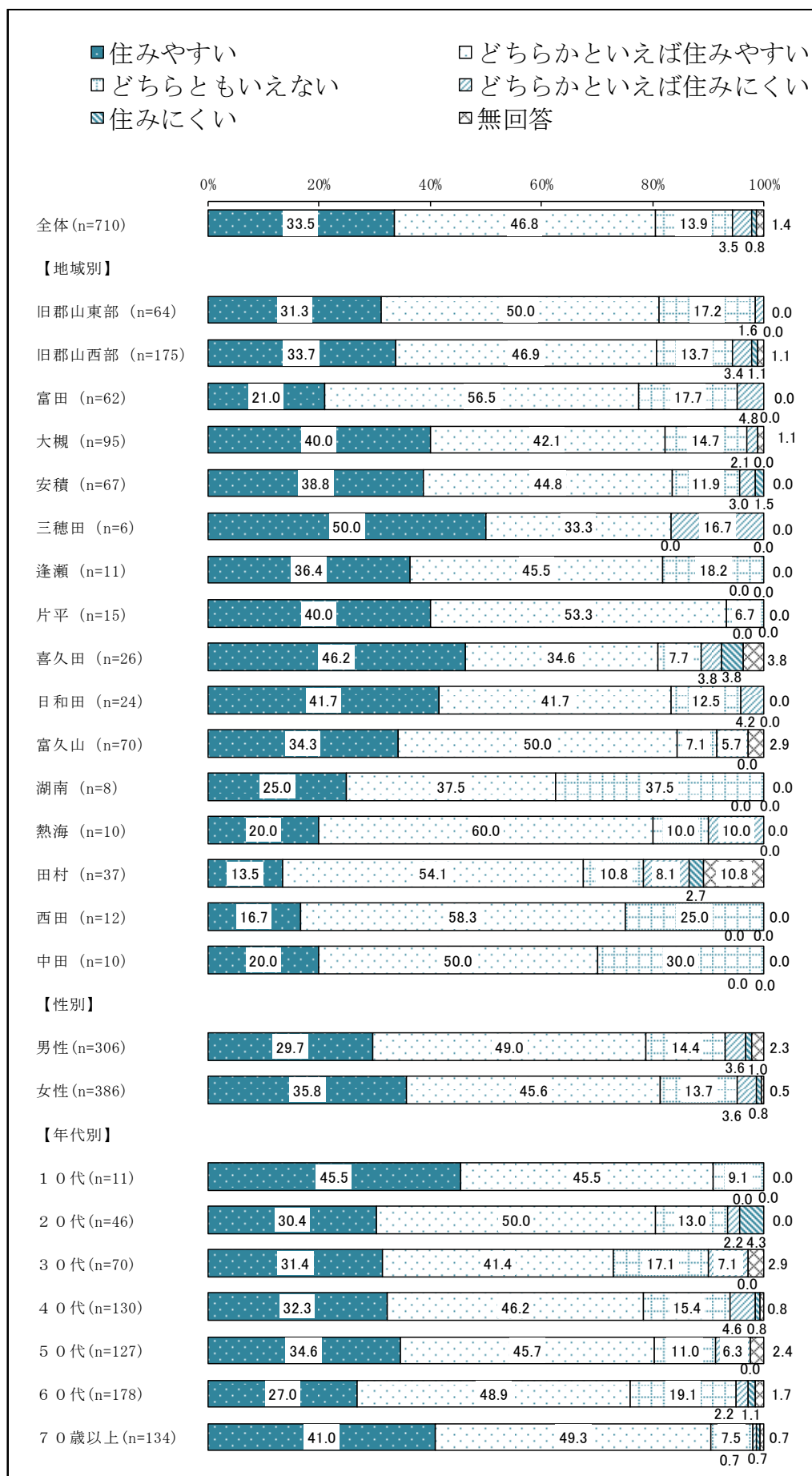
②年代別

『住みやすい』計の割合は、10代、20代、50代、70歳以上では8割を超え、10代（91.0%）、70歳以上（90.3%）では9割に達しています。

一方で、最も低いのは30代（72.8%）で、「どちらともいえない」「どちらかといえば住みにくい」の計（24.2%）が他の世代に比較して多くなっています。

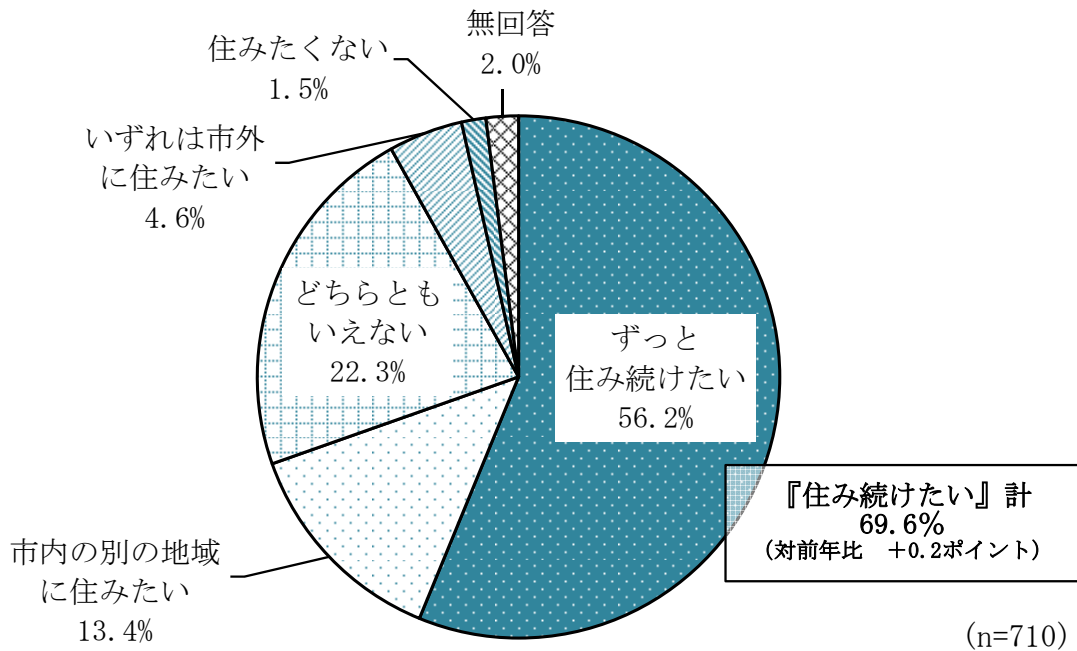
また、30代では「住みにくい」との回答は無かったが、20代で4.3%と他の世代に比較して多くなっています。

図 1-2 住みやすさの評価（地域別／性別／年代別）



(2) 今後の居住意向

問 あなたは、今後も郡山市に住みたいと思いますか？（○は1つだけ）



————— 7割の市民は今後も郡山市内に住みたいとしている —————

【全体結果】

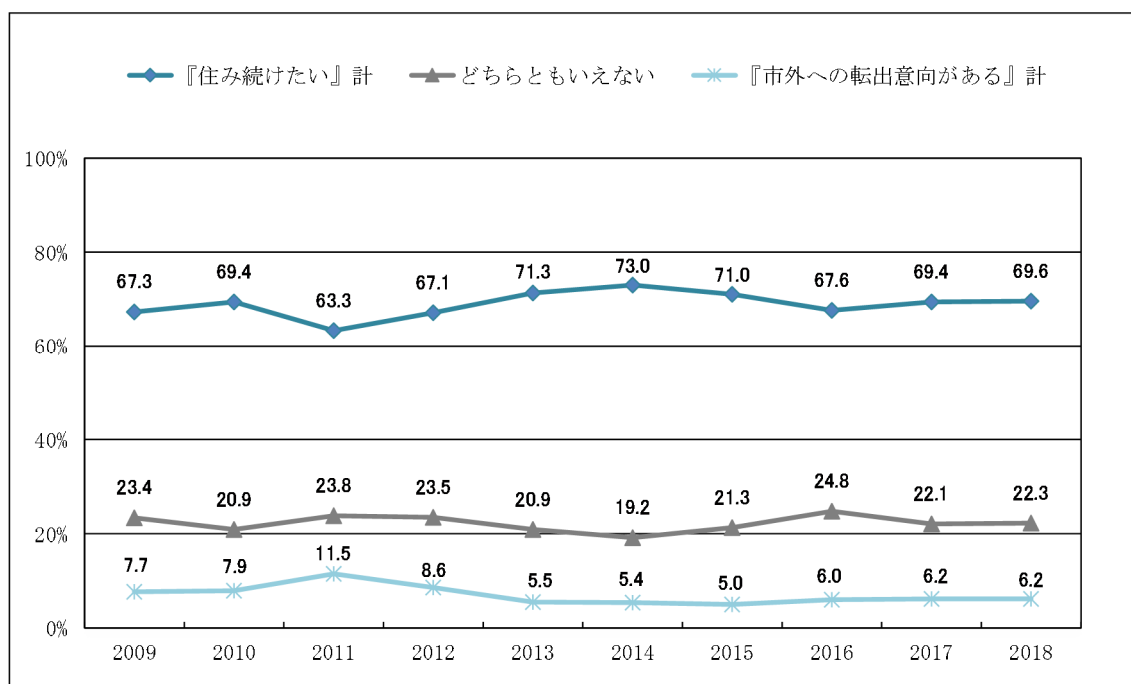
今後も郡山市に住みたいかどうかについては「現在の住所にずっと住みたい」(56.2%)、「市内の別の地域に住みたい」(13.4%)で両者を合計した『住みたい』計(69.6%)が約7割を占めています。

前項の『住みやすい』計と比較すると1割程度低く、「どちらともいえない」の割合が『住みやすい』計よりも1割程度増えています。

一方、「いずれは市外に住みたい」(4.6%)と「住みたくない」(1.5%)を合計した『市外への転出意向がある』計は5%程度(6.1%)となっています。

なお、過去10年の推移で比較すると、前項の〈住みやすさへの評価〉と同様、東日本大震災直後『住みたい』計は低下したものの、2013年以降、概ね7割前後で推移しています。また、『市外への転出意向』計は2011年をピークに減少し、2013年以降、6%前後で推移しています。(図1-3参照)

図 1－3 今後の居住意向（過去調査結果との比較）



【属性別結果】（図 1-4 参照）

①性別

前項の〈住みやすさへの評価〉と同様に、『住み続けたい』計の割合は、女性（70.5%）の方が男性（67.7%）よりもやや高くなっています。

②年代別

こちらも前項の〈住みやすさへの評価〉とほぼ同様で、『住み続けたい』計の割合は、70歳以上（87.3%）で最も高く、次に60代（75.3%）と高い年代で割合が高くなっています。

一方、10代は「どちらともいえない」の割合が高く（54.5%）、『住み続けたい』計（36.4%）は低くなっています。次に、30代（55.7%）、20代（58.7%）が低く、この年代では「いずれは市外に住みたい」「住みたくない」の割合が他の世代に比較して多くなっています。

図 1-4 今後の居住意向（地域別／性別／年代別）

